

編集後記

精神科デイ・ケアについて作業療法士としてもっとも気になるのは、診療報酬に係る施設認定基準のうちの次の部分である。

「精神科医及び専従する3人の従事者(作業療法士又は精神科デイ・ケアの経験を有する看護婦(士)のいずれか1人、看護婦(士)1人、精神科ソーシャルワーカー、臨床心理技術者等の人)の4人で構成される従事者が必要である。なお精神科デイ・ケアの経験を有する看護婦(士)とは当面精神科デイ・ケアの経験を有し、かつ国立精神衛生研究所における所定の研修課程を修了した者をいう」

(アンダーライン：筆者)

これは1974年に新設された精神科デイ・ケアの施設認定基準が、作業療法士が不足していることから1978年に「又は」以降を付け加え緩和したものである。大橋論文にも述べられているが、作業療法士養成校が29校を数え、500名余の新人を毎年送り出す今日、「又は」以降は不要であると考え、職種役割からいっ

ても作業療法士と看護婦(士)は異なるべきであり、またそうあらねばならない。

実は、以上のような主張はこの施設基準ができた当初から、日本作業療法を協会としては主張し続け今日に至っている。このことが動機となって、今月号の「特集 精神科デイケアと作業療法士」は生まれた。時あたかも精神保健法が設立し精神障害者の社会復帰に光が当たってきた好機である。本特集全体力作揃いである。志高く精神科デイ・ケアの灯をかがげ努力してきた方々の底力が特集を量感のあるものにしたと編集者の1人として感謝している。

数々の職種が入り乱れて「何がなんだかわからない」状態(?失礼!)でともかくも施行してきたかに見えたこの分野も分化と総合化の経験を重ね、今や新しい作業療法士にとっての魅力ある挑戦領域の一つに成長してきたように思う。今後のいっそうの発展を期待しましょう!

(寺山久美子)

理学療法と作業療法

(第22巻 第8号)

1988年8月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,350円(配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 15,120円)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当：渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1988, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

<編集顧問>

天 児 民 和

九州労災病院名誉院長

五味 重 春

東京都立医療技術短大長

津 山 直 一

国立身体障害者リハビリ
センター総長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏

東大リハビリ部

荻 島 秀 男

ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科

大 喜 多 潤

兵庫県玉津福祉センター

寺 山 久 美 子

東京都立医療技術短大

富 岡 詔 子

信州大学医療技術短大

奈 良 勲

金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子

筑波大学

松 村 秩

東京都立医療技術短大

<編集同人>

池 松 洋 子

岩 崎 テ ル 子

宇 都 宮 初 夫

金 子 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 み ち 子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

橋 元 隆

古 川 宏

松 沢 博

宮 崎 和 子

宮 前 珠 子

山 田 貞 雄

矢 谷 令 子